

## 学生にとって理想のシラバスとは？

～「パンキョウ」の意義を理解する～

話題提供者: 桑島 英理佳 (宇都宮大学基盤教育センター特任助教)

日時: 平成28年1月22日(金) 12:50～14:20  
会場: ラーニング・コモンズ2

### Udai教育セミナーの趣旨・目的

宇都宮大学は、主体的に挑戦し(Challenge)、自らを変え(Change)、社会に貢献(Contribution)する人材(3C人材)の養成を目標としています。新たな地域社会の変革を担う3C人材の養成には、従来の大学教育が担ってきた知識の獲得に加え、自ら課題を設定して主体的に学ぶアクティブ・ラーニングによる能動的学修の展開が効果的と考えられます。本学には、これまで多くの教員の不断の努力により、授業における多様な工夫と実践が蓄積されてきました。

Udai教育セミナーは、その成果と課題の共有を目的として、定期的に行っています。第11回は、当センター桑島英理佳特任助教が、基盤教育科目「宇大を学ぶ」の実践を報告しました。

### 「宇大を学ぶ」授業開設の意図

「宇大を学ぶ」は、平成26年3月まで当センターに在職した廣内大輔先生(現・岐阜大学教育推進・学生支援機構准教授)が開設した科目です。当時の内容は、「自校教育」として宇都宮大学の歴史を学ぶ色彩の濃い科目でした。一方、今年度からラーニング・コモンズに導入したピア・サポーター「コモンズ・スタッフ」では、学生が学生の学修を支援する上で、的確な指導ができるよう、本学のカリキュラムや教育課程編成の方針等に関する理解が求められて

います。このため、「自校教育」としての要素に加え、宇都宮大学の前身となった諸学校の歴史が現在の学部・学科構成にどのように受け継がれてきたのか、平成3年に行われた大学設置基準大綱化という大きな変革の要請に対し、教養部廃止と国際学部の新設という形で応えた経緯等、教育課程の変遷を理解できるようにしました。また、授業の中盤では、宇都宮大学の学生が社会的にどのように見られているか、受講生が手分けして行ったステークホルダーの聞き取り結果を持ち寄り、自分たちと異なる視点での受け止め方がなされていることを共有しました。



授業の中盤以降は、ピアサポーターに必要なファシリテーション能力の育成を行う一方、この授業で学んだことのアウトプットとして、学生が考える「理想のシラバス」づくりを行いました。最初に現在のカリキュラムや教育体制の「良いところ」「悪いところ」を洗い出し、検討の出発点としました。



## 「理想のシラバス」づくり

学生が求める「理想のシラバス」を作るとは言っても、ただ単に現状の科目に対する不満を込めたり、現実離れた科目を考えるようでは、この授業の意味がありません。そのために、学内の教育資源探索を行ったり、有識者の新聞記事を参照して「パンキョウ」が実は大事なものだという理解を深めました。また、シラバスを検討する過程においては、①授業科目名、②授業概要(授業担当者・学期・形式・外部講師)、③学習目標・到達目標、④具体的な進め方(アクティブ・ラーニング、グループワークの取り入れ方)、⑤具体的な授業計画(15回分)、⑥成績評価の方法、⑦教科書・参考書等、シラバスの各項目ごとに、設定の観点が示された、それらに留意した科目設計が行われました。(以下、授業で用いたスライドの例)

### シラバス作成

#### 作業2: 成績評価

##### 留意点

- ・ 授業内容、授業の到達目標、授業の方法と成績評価は一体のものとして考える。
- ・ 学習方法に最適な成績評価の方法を検討する。
- ・ 複数回の評価ポイントを入れる。
- ・ 学生の学習を多面的に捉えるため、成績評価の方法もいくつかの視点を採り入れたものを考える。

##### 成績評価が持つべき性格

- ・ 妥当性: 計測しようとする事柄を計測できる方法か?
- ・ 信頼性: 計測結果に再現性はあるか?
- ・ 客観性: 教員が交替しても、同じ結果が得られるか?
- ・ 効率性: 経済的、時間的にも実用的方法か?
- ・ 特異性: 学生がなぜそのような解答をしたか分かるか?

## 学生FDの試み

セミナー当日は、参加教員の前で、自分たちが考えたシラバスを発表した後に、教員を交えた意見交換を行いました。参加した教員からは、「現時点で教養教育の意義を本当に理解するのは難しいが、それでもきちんと意義をとらえようとしている点が評価できる」、「学生が出した「生の声(良いところ・悪いところ)」にもっと耳を傾ける必要があるのではないか」などという声が聴かれました。



他大学では、このような学生の声を採り入れたFD活動が盛んに行われているところもあります。このような機会を本学でも増やしていくことで、学生と教員が授業の改善を目指して学び合うコモンズを創出することができればと考えています。

### 学生と教員がともに学び合うコモンズの創出

